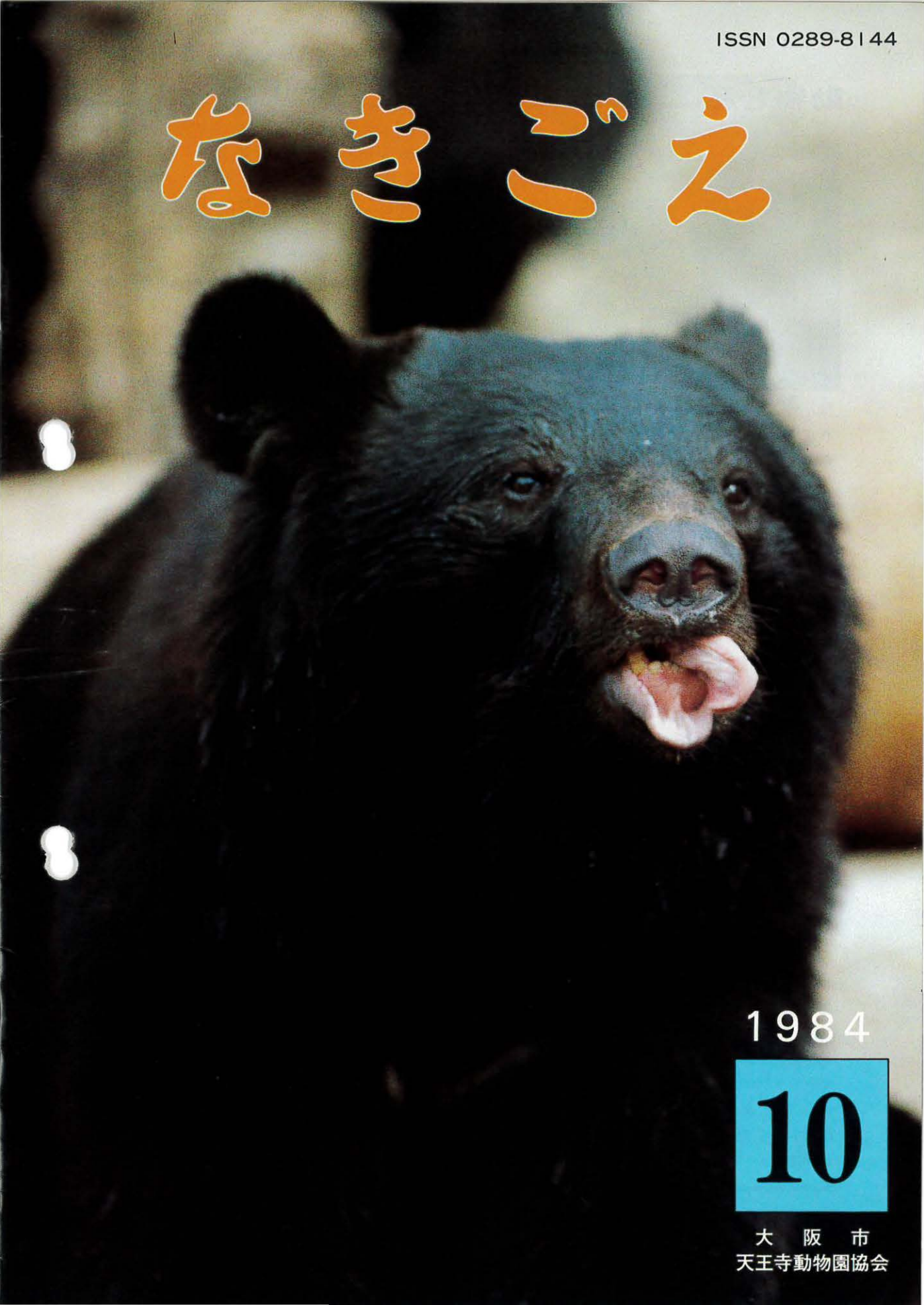
ISSN 0289-8144

なきごえ



1984
10
大阪市
天王寺動物園協会

動物と私

小　原　二　郎

動物と私の出会いは、天王寺動物園の古い水禽舎で始まった。それは多分私が3歳、昭和6年頃であると、両親から教えられた。そして不幸な戦争の時代の末期に、旧関東軍鳩育成所で、職業人として動物に出会った。戦後は、獣医科の学生として動物との出会いをした。それを経た後社会に出て、動物園人として野生動物との出会いに続く。

動物園の新米獣医は、そこで野生動物の飼育が、家畜の飼育とは異なることを体験した。そして職場が変わり、飼育下野生動物の健康管理と、新しい飼育技術の開発に関して責任をもつ役割をもった。次には新しい動物園作りにたずさわり、自分の支配下におく動物との出会いで、人が動物に対して果たさねばならぬ義務の重さを改めて実感した。

動物園の飼育技術者が使う「難獣」という言葉がある。これはよく知られている動物でありながら、「飼いにくい」とされているものを示す言葉である。特別天然記念物に指定されているニホンカモシカは難獣に該当するのか論義されたことがある。この論議は、その時「難獣ではない」と結論しながら、今日のカモシカ会議に引き継がれている。そして現在でもニホンカモシカの飼育は、難獣の扱いから抜け出すことに成功していないように思われる。

ニホンカモシカに限らず、日本特産の動物は、難獣が多い。そのために、日本の動物園では、日本産動物の展示が充実していない。

私は動物園での仕事で、オオサンショウウオと特別に親しいつきあいをする機会を得た。オオサンショウウオは、シーボルトがヨーロッパの学会に紹介し、世界的に有名な動物になった。このことがなされるより以前、日本の古典では、生息地以外の都会では珍しい動物として扱われている。そして博覧会などには、必ず登場する動物である。その後の近代動物学では、重要な研究対象となっているが、飼育に関してはほとんど研究されていない。明治の碩学である石川千代松は、オランダのアムステルダムで、オオサンショウウオが卵を産み、幼生が飼われているのを見て、「此のハンザキは、佐々木氏も余も非常に苦心したにも拘らず本邦では産卵した例がないのに……」と、飼育には成功せず、「難動物」であることをうかがわせる記述をしている。アムステルダムで卵を産んだのは、1902年と1903年の2回である。それから70年余り後、1979年に広島市安佐動物園では、園内の実験水槽で飼育下繁殖に成功した。それ以後は、繁殖を3群に増やし、水槽の容積を小さくする工夫をこらし、幼生から成体までの展示方法を研究している。この研究がうまくいった理由は、ただオオサンショウウオの生活時間に人間が従って動いたことと、どんなに小さなことでも不思議に思う探究心を持ち続けただけのことである。

私はこの研究を通じて、人間の都合だけによる計画では、多くの動物につきあってもらうことができず、彼らの都合を尊重せねばほんとうの動物の姿を見ることができないのを教えられた。

（前広島市安佐動物公園長）

なきごえ10月号もくじ

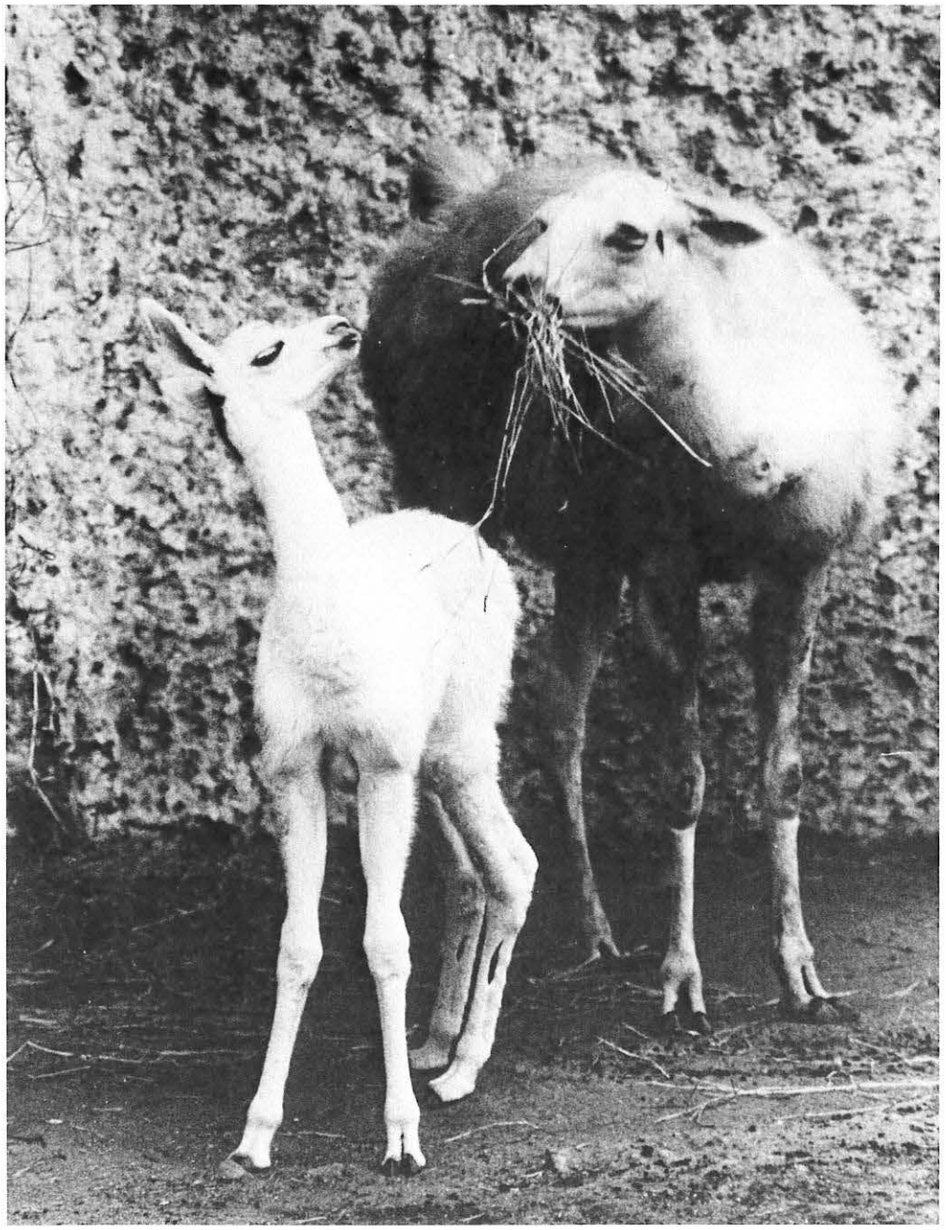
動物と私 …… 2
“相次ぐラマの出産” …… 3
動物園グラフ・動物園日記 ……4・5
マウンテンゴリラの危機 …… 6・7
新しいキジ舎の繁殖 …… 8・9
獣医室から ㉞ …… 10
動物園ニュース …… 11

表紙の写真説明

“ニホンツキノワグマ”

ヒマラヤグマの一亜種であるこのクマは、その名のとおり胸に月の輪型の白斑が見られます。本州、四国、九州に生息していますが、四国、九州では絶滅寸前です。

（撮影：大 川 光 雄）



“相次ぐラマの出産”

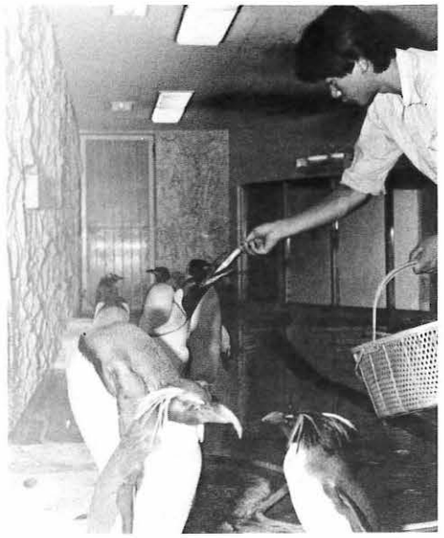
9月に入り連続してラマの赤ちゃんが誕生しました。この子は8日に生まれたチコで、母親はこれで8産目のベテランママ。きっと、りっぱに育て上げてくれることでしょう。

（撮影：森 本 委 利）

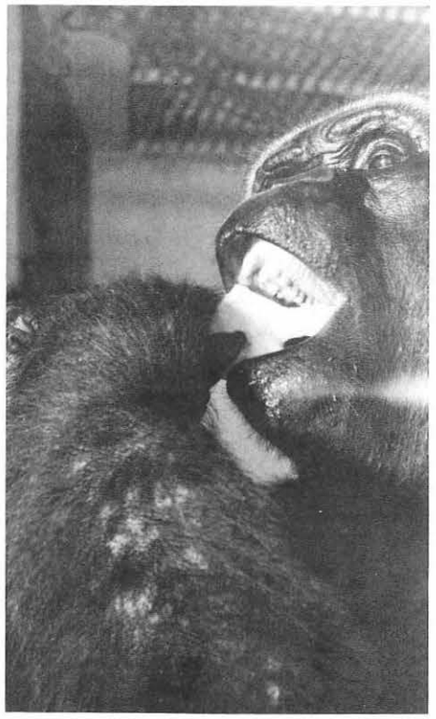
動物園グラフ

“食欲の秋”

この頃は、毎日しのぎやすい日が続き動物たちの体調も最高!!。食欲もぐーんと上がってきたようです。おいしそうに食べているその表情をどうぞごらん下さい。　　（森 本 委 利・長瀬健二郎）



魚のアジを毎日食べているペンギンたち、順番にならんでもらっています。



ローランドゴリラの“ラリ”さん。おいしそうにスイカを食べているところです。

ともに乾草を食べています。クロサイ親子は礼儀正しくならんで、インドゾウは、エサを頭の上にかぶって食べています。

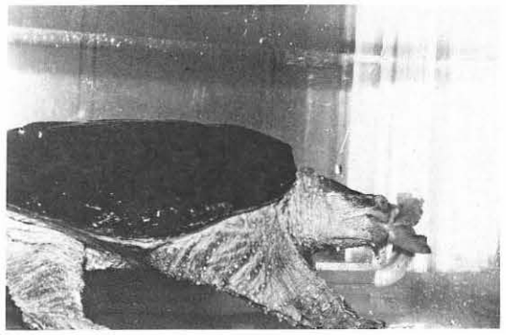
8・9月の動物園日記

8 / 11. キングペンギンが産卵しました。
8 / 13. アカカンガルーの“チャリー”（オス）と“ポケット”（メス）が交尾しました。
8 / 15. キョンが1頭生まれました。
タテガミガンが肝障害のために死亡しました。
8 / 17. グラントシマウマの“レディ”が元気なオスの子を生みましたが、運動場の堀によく落ちてしまうため屋内飼育舎に母子とも隔離することにしました。
8 / 19. カルガモのヒナを3羽保護しました。
8 / 21. エランドの親子をカモシカ園に放飼しました。
8 / 23. 今月17日生まれでその日から屋内に隔離していたグラントシマウマの子とその母を運動場にはじめて出すことにしました。一度堀に落ちましたが自分の力で登り、その後は順調です。
8 / 24. 昭和57年9月より、右翼損傷で保護治療を受け結局飛べなくなり動物病院で飼育されていたウミネコを、水禽放養舎にて展示飼育することにしました。
8 / 26. キョンが1頭生まれました。
チャムネシャクケイが産卵しました。

トカラヤギがおとなりさんのコビトコブウシのエサをちょっといただいているところです。コビトコブウシの最近の悩みです。

係のおじさんが、魚のエサをもってきてくれると我先にとシュバシコウとタンチョウたちが集ってきますが仲良く食べています。

20頭近くいるバーバリシープ。早く食べないとエサがなくなるよ!!みんな必死です。



カミツキガメが、コイの肉に食いついているところです。そのカミつく瞬間を一度みせたいです目にも止まらぬ速さでした。

8 / 27. 尾の損傷で子供とともに入院していたフサオマキザルの雌を、傷が完治したため退院させ展示を始めることにしました。
近畿地区動物園獣医師勉強会が開かれました。
8 / 28. キーウィの体重測定を行ないました。
8 / 29. ハリモグラの体重測定を行ないました。
8 / 30. 7月5日に皮膚損傷のため入院していたベンガルヤマネコのオスを、傷も良好なので退院させることにしました。
ホッキョクギツネの雄1頭の寄贈を受けました。
8 / 31. アジアゾウのハルコが運動場の堀に落ちてしまいました。落ちて2時間半後、運動場にスムーズに登れるように設置されていたスロープを使い、やっと堀から運動場へともどることができました。
9 / 2. オランウータン“サツキ”にメンスがありました。よって9月15日頃からオスとの同居を考えています。
9 / 3. ホッキョクギツネの検疫が終了したので、小獣舎にて展示を始めることにしました。
9 / 4. キーウィの夜間行動観察を行ないました。
9 / 5. ラマ“マリー”が雌の子を生みました。
9 / 8. ラマ“ホワイティー”が雌の子を生みました。

マウンテンゴリラの危機

山　極　寿　一

この巨大な体軀を誇るジャングルの王者が、私たちの前に姿を現わしたのはいつのことだったろうか。いかつい顎、ひしゃげた鼻、せり出した額の奥に光る小さな眼。彼がその丸太のような腕でたくましい胸を連打し、雷のような吠哮をあげてあたりの木をへし折りながら突進してきたとき、武器をもたずに近寄った人々は自分の軽率さに顎然とし、思わず天を仰がずにはいられなかったに違いない。その突進が実は見せかけのもので、オス同士の間にかわされる高度に儀式化されたディスプレイであることがわかったのは随分後のことである。

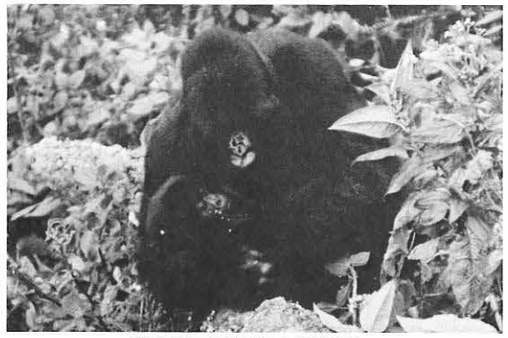
ドラミング（胸叩き）は、おそらく銃をもたない人々とゴリラとの間ではるか昔にかわされた協定でもあったに違いない。この敵意に満ちた嵐のようなあいさつを受けた人々は、自分が今ゴリラの園へ踏み込んでいることを悟り、それ以上ゴリラの生活に立ち入ることはなかった。村に帰った人々は、ぶ厚い胸のかわりにタムタムを叩き、そのリズミカルな響きを森の交信手段としたのだろう。

ゴリラのドラミング

文明社会が誤解した凶悪なゴリラのイメージは、キングコングに姿を変えてニューヨークへやってきた。文明社会の人々は、彼らが想像していた暗く不気味なジャングルの支配者を、孤独で陰気な性格の持ち主と考えたのである。これはゴリラたちに大きな不幸をもたらした。博物館や動物園の依頼を受けたコレクターたちが、ゴリラを捕えるために多大な犠牲を払わねばならぬと覚悟を決めたからである。一頭のコドモゴリラを捕えるために、その集団のすべてのゴリラが虐殺されるという事態が生じた。家族を守って立ちふさがるオスゴリラや、コドモを離そうとしない母親やその仲間を次々に撃ち倒さなければならなかったのである。生きたまま捕えるには、オトナのゴリラたちはあまりにも危険な存在だった。

私はこの6年間、アフリカ各地でゴリラの生息域を訪ね、ゴリラたちがもはや取り返しのつかない段階まで追いつめられていることを知った。現在ゴリラはアフリカ全土に約13,000頭の生息が見込まれているが、そのほとんどは西アフリカのローランドゴリラで、日本の動物園でもこの種類しか見ることはできない。ザイール川の上流域に住む東ローランドゴリラは約 400頭、ビルンガ死火山群のマウンテンゴリラはすでに 242頭に減ってしまっている。その主な原因は、大規模な森林の伐採や放牧牛の追い込みによる生息域の攪乱と、密猟による乱獲である。何か手段を構じなければ、近い将来彼らはこの世界から姿を消してしまうだろう。

ゴリラは極めて成長の遅い動物である。アカンボウは3年間母親の乳を吸い続け、母親はこの間発情しないので出産は4年に1度ということになる。メスは10才にならないと初産を迎えないし、オスが繁殖に関与するのはおそらく20才に達してからだろう。フィラデルフィア動物園の「マッサ」は今年で53才になった。「人間わずか50年」の頃を思い起こすと、たとえそれが夢まぼろしの如きものであろうとも彼らの生涯は我々人間の一生とあまり異なるものではない。


乳のみ児を抱いたメスゴリラ

動物園では、オスが5才になると交尾行動を示すことが知られている。すると、野生状態では繁殖能力のある若いオスが長い間その能力を発揮できずに暮らしていることになる。これは、オスが成熟期に達すると（13才を過ぎると背中の毛が白銀色に染まり始め、シルバーバックと呼ばれるオトナのオスになる）、生まれ育った集団をはなれ、数年間単独生活を送らねばならない宿命を負っているからである。

若いオスは、独りで森をさまよい歩いて森の何処でどのような食物が得られるかを知り、今まで出会ったことのない集団に遭遇してさまざまな近隣関係を学んでゆく。そして、彼がやがて他の集団からメスを連れ出して一家を構えたとき、彼は初めて一人前のオスとして繁殖に関わることができる。

ゴリラのメスは、成熟期に達すると母親のもとをはなれて他の集団や独り暮らしをしているオスに移籍する。メスはオスのように独りで森を歩き回ることをせず、移籍を何回か繰り返した後、初産を迎えた集団に腰をすえる。か弱い乳児の存在がメスのオスへの依存心を増し、また、メスの発情が授乳中は抑えられるために、見知らぬオスへ魅かれてゆくことがなくなるのだろう。だから、ゴリラの社会は乱婚社会ではない。メスは最終的に一頭のオスと配偶関係を結び、子を産み育てながら長期にわたって自分と子供の暮らしをそのオスに任せるのである。ゴリラの社会がオスに繁殖能力だけでなく、豊富な知識と社会経験を要求しているのはあながち不思議なことではあるまい。

母親と嫁入前の娘ゴリラ

私はこのようなメスの移籍を「ゴリラの嫁入り」と呼んでいる。移籍したメスが生涯を托す集団には、ふつう母親も、姉や妹も居ない。ニホンザルをはじめとする他の多くのサルの母系社会と異なり、メスたちはその集団のオスとだけつながりをもっていて、互いに母系的なきずなで結びついているのではない。つまり、一夫多妻的なゴリラの集団は、オスを除いてしまえばバラバラに分解してしまう運命にある。

ゴリラの家族。1頭のシルバーバックと
メスやコドモたちからなる。

また、子供は「かすがい」であり、オスとメスを結びつけている乳児が殺されると、メスはそのオスに見切りをつけて別のオスのもとへ走ってしまうことが多い。ゴリラの社会では、メスがその配偶者となるべきオスを選ぶのである。

こうして形成された配偶関係の中で、父親の存在は重要である。シルバーバックは、まだ首のすわらない乳児を抱いた母親を優しく毛づくろい、母親が他のゴリラとトラブルを起こすと間に割って入り母親を守ろうとする。まだ自分でベッドを作れないうちに母親を失ったコドモはシルバーバックに引き取られ、彼の広々としたベッドの中で太い腕に抱かれて眠る。寛大な父のまわりにコドモたちが群らがり、一日中ついて歩くのはそう珍しい光景ではない。そして、この「父性」は強い敵対関係をもったオトナオス同士の中で、父と息子だけに共存を保証するのである。オトナになった息子と老いた父親は、「血縁」の記憶でなく、きっと「育児」の記憶を共有することによって敵愾心の芽生えを摘み取るのだろう。

わが国の動物園では、ゴリラのオスたちが今やっとオトナになり始めたばかりだ。彼らの繁殖能力はまだ未知数である。しかし、どの動物園でも飼育員の方々がゴリラの繁殖に苦慮している。これまで出産に成功したのは京都市動物園他3園で5例しかないのである。幼い頃からオスとメス1頭ずつのペアで育てられ、離脱も移籍もできない幼な馴じみ同士に交尾を期待するのはどだい無理な話なのかもしれない。優しく厳格な父親である飼育員の前で交尾をすることもゴリラ社会のルールに反している。オトナになった息子はふつう父親のもとを去ってから配偶者を見つけるのである。

家父長シルバーバック

最近上野動物園から多摩動物園にゴリラのメスを移籍させるという試みがなされた。これは歓迎すべきことである。日本中の動物園がゴリラの嫁入りを促進し、繁殖に協力することは、野生のゴリラの乱獲を防ぐ意味でも重要である。それに、私たちは原野の生活を知らずに育ったゴリラたちにも、なるべくゴリラらしい生涯を与えてやりたいではないか。

（日本モンキーセンター研究員）

新しいキジ舎での自然繁殖

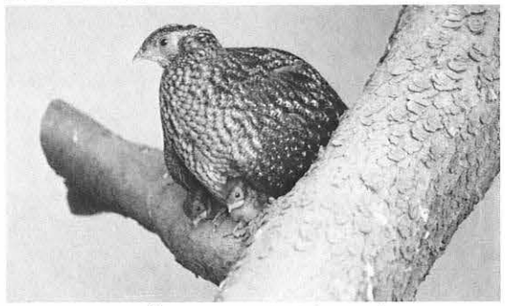
今年３月28日、新しくキジ舎がオープンしました。従来のキジ舎の老朽化が著しいため、新たに建て替えたものです。新キジ舎は面積 370㎡、室数32室で、前面の金網はステンレス製です。 今度のキジ舎 建設にあたってはプロジェクトチームを編成し、キジ類の生活環境を考慮し、見やすく管理しやすいキジ舎をということで、種々の希望、意見をとりいれて建てられました。その中に、できる限り自然に近い状態で繁殖させて、そのようすを展示できればという希望があったのですが、これがなんと実現してしまったのです。以下、その自然繁殖例をご紹介しましょう。

キジ舎全景

産卵期直前の移動、そして環境の変化という事で、今年の繁殖には相当の影響が出るのではないかと心配していましたが、移動後すぐにコサンケイが産卵を始めました。キジ舎での自然繁殖は天王寺動物園では前例なく、とりあえず、枯葉や乾草を適当な長さに切ったものを入れました。これらできれいな巣を作り４月11日までに計８個の卵を生み、抱卵に入りました。１週間後には同居しているもう１羽の雌も巣を作り、抱卵を如めました。抱卵している雌に対し雄がどの様な反応を示すのか大変興味がありましたが、別に攻撃をする事もなかったのでそのまま一緒に展示する事にしました。ある時など、どうした事か卵が１つ外にころがり出ていたので、いったい、なぜと考えてみましたら、雄がいつの間にかその卵を抱いたという事もありました。しかし、どうやら本格的に抱卵しようとしたのではなく単なる暇つぶし(？)だったのでしょうか、１時間もすると卵から離れてウロウロと歩きまわっているという事もありました。結局、コサンケイの卵は検卵の結果全て無精卵であったため取り上げましたが、空っぽになった巣で抱卵姿勢を崩さずにいるのを見ると何とも言えぬ気がしました。

４月23日には**ハイイロコクジャク**が１卵を産んですぐ抱卵を始めました。枯葉等の巣材を与えましたが、気に入らないのかそれらには見向きもせずに、地面に10cm位のくぼみを作っただけの巣で抱卵を続けました。同居している雄も雌の隣に並んですわったりしていましたが、抱卵はずっと雌が行っていました。５月11日、ふ化。さっそくエサを食べ始めるのですが、雌が地面をつついているとそこに走ってきてヒナも同じ様に真似をしたり、雌の嘴から直接エサをもらったりしていました。また、雌がエサをくわえ、それをヒナの前にもっていき地面に落とすという動作を何度か繰り返すうちに、下に落としたエサをヒナが食べるという行動もみられました。これらの３つのパターンで、何を餌として食べるのかを学習している様でした。また雌はヒナが自分より後ろにくると尾をふり、常にヒナを自分の前にくるようにしていました。ふ化後には雄を別居させようかと迷っていましたが、ヒナに対して攻撃する様子もなく、ただヒナが雄の足元に行くと上尾筒を立てたりするだけなので、そのまま同居させる事にしました。生後８日目、左足を上げて痛そうにしていましたが、エサも食べているので、様子を見る事にしました。生後12日目、治療の為、とりあげる事にしました。左大腿骨の骨折。治療後、親の所へ帰すと、すぐに近づいてきてヒナを抱いていました。しかし残念ながら、キジ舎最初の自然ふ化のヒナは、死亡してしまいました。

４月26日より、**ベニジュケイ**が抱卵を始めました。抱卵数４卵ですが、うち１卵は割れていた為、後日取り上げました。ベニジュケイは、野生では樹上に営巣するはずなのですが、今回は地面に営巣していました。抱卵より29日目の５月24日に２羽が無事ふ化し、残り１卵は死ごもりでした。

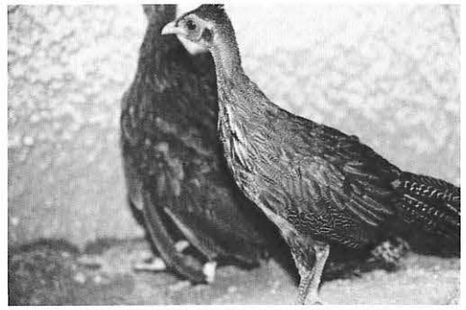


ベニジュケイのヒナ(ふ化後11日目)

ヒナが雌のまわりをうろつき鳴き始めると、同居していた雄が突然ディスプレイを始めたので雄だけ別居させる事にしました。ふ化後２日目で木に登って歩きまわるのが見られました。エサとしてチックフードに青菜、黄味を混ぜて与えました。ふ化後５日目よりミルワームも食べる様になりました。エサの食べ方もハイイロコクジャクで見られた様な学習が同じ様に見られました。またふ化後10日目位までは、夕方になると必ず雌が一定のコースを歩き、クックッと鳴くとヒナも同じコースを歩き、木に登ったり、飛び降りたりする練習をしている様に見られました。ふ化後12日目より羽毛がはえ変わり始めました。これに前後する様に砂浴びをするのが見られ、22日目には完全にひな毛から羽毛へとはえ変わりました。この頃から体も大きくなってきたため、休む時も雌の下にもぐり込まずに、外で休む事が多くなり、40日目には体つきは親より少し小さめですがもう一人前になりました。110日目を過ぎましたが、まだ雌雄の区別はハッキリしていません。

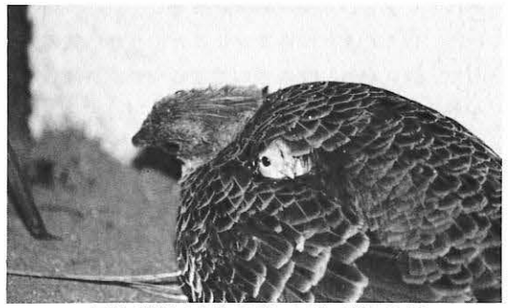
ベニジュケイがふ化した５月24日より**ウスズミハッカン**が、６卵を抱卵し始めました。

６月17日に巣の外に卵のカラがあったので、雄を別居させ、チックフードを入れておきました。翌18日に１羽、19日に１羽、計２羽のヒナがふ化しました。ふ化後５日目までは雌の下でじっとし採食時にのみ出て来ていたのが、その後は雌から離れて歩いたり、20cm程の高さを飛んだりするのも見られました。ふ化後19日目にキジ舎の前を散歩中の人工哺育で育てたチュウゴクオオカミが通った時などは、部屋の中を飛びまわり、側面の金アミにとまったりしました。ふ化後30日目位からミルワームを給与する時に強弱の差が見られる様になり、体の大きさにも違いがでてきました。43日目には体の大きなヒナの胸と尾の部分に雄の羽色がハッキリと出てき、80目を過ぎた今では雄のヒナは雌の親と同じ大きさになっています。



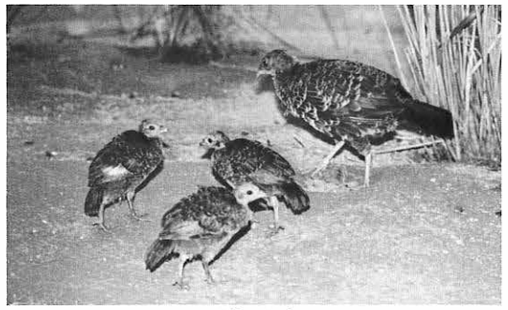
オスの羽色を示しだしたヒナ(２ヶ月令)

またミヤマハッカンが６月14日より７卵で抱卵を始めました。ふ化予定日の１日前の７月８日に雄を別居させ、７月９日に４羽、10日に１羽、計５羽がふ化しました。ふ化したヒナはその日から自分達の好きな様に部屋の中を歩きまわり、親が心配そうにクックッと鳴き呼び集めても、常に２～３羽は全く関係のない所を歩きまわっていました。ふ化後８日目位から、５羽がまとまって親の後をついて歩く様になりました。ふ化後14日目、１羽のヒナが左足大腿部内側にケガをし、出血していました。ヨードチンキで消毒後、すぐ親の所へ返すと片足で親の所まで行き、しゃがみ込んでじっとしていました。ケガをして２日後にはもう傷もよくなり食欲も出てきた様でしたが、他のヒナ達と体の大きさに差がついてしまいました。その後も順調にエサも食べている様なのですが、体の大きさの違いはますます大きくなるばかりで、とうとう８月６日に死亡してしまいました。死亡時にはひどくやせていて、外傷などはありませんでした。



母親の翼から顔をのぞかせるヒナ(２日令)

25日令



34日令のヒナ

ふ化後22日目、一番体の大きなヒナがくちばしのつけねから出血していました。その出血部分を他のヒナや親がつつき出血がひどくなり死亡しました。なぜ出血部分を他のヒナや親がつついたのかは不明です。またふ化後30日目頃よりヒナ同士の羽毛のつつきあいが目立ってきました。原因はわかりませんが、おそらくストレスではないかとススキを入れてみた所、ススキの葉をつつくのに気をとられ、羽毛のつつきあいの方は何とかおさまっている様です。

以上、現在までのキジ舎の繁殖状況を書いてきましたが、それぞれ大きくなっていくヒナ達、早く一人前になるよう皆様も応援してあげて下さい。

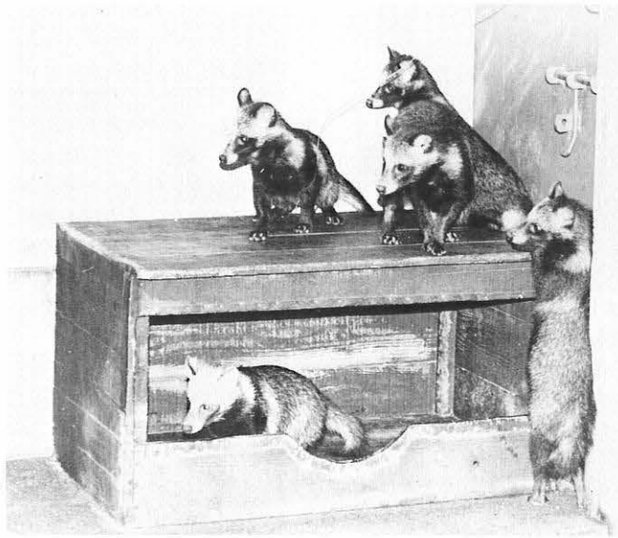
(飼育課：早　川　　篤)

獣医室から ㉞

＊子ダヌキの健康診断＊

5月15日にタヌキが6頭生まれました。母親は昨年も6頭出産しており、2年連続のお目でたです。昨年は残念ながら離乳時期に急に元気不振となり、次々と手のほどこすこともできないうちに死亡してしまっただけに、今年こそは元気に育ってほしいと願いをかけていました。母親も二度目の出産ということでじょうずに育児をし、6頭の子ダヌキは全て順調に成長してきました。子のすばらしい成育ぶりに比べ、6頭もの子ダヌキにお乳を吸われた母ダヌキはさすがにやせ細ってしまいました。

ところで、当園では3年前にイヌ科の動物に犬ジステンパーという伝染病が発生したことがあります。その時にタヌキにも伝染して治療に苦慮した経験があるだけに、その対策には気をつかっていました。この犬ジステンパーは飼い犬でよく発生が認められ、有効な治療法もなく、致命率の大変高い病気です。飼い犬では生後60日令の子犬の時に予防ワクチンの接種を行います。タヌキにもこの伝染病の感受性があるだけに、今回の子ダヌキには生後60日をすぎた時点でワクチン接種を実施することにしました。そしてその機会に体重の測定もできるし、性別のチェックも、さらに個々の個体識別もできるしと一石四鳥が期待できるわけです。



元気にエサを食べる子ダヌキたち

しかし不安もあります。このような健康診断のために母親から子ダヌキを一時的に引き離すことによって、母子の間に断絶が生じるかもしれませんし、捕獲するショックで子ダヌキに何らかのダメージが与えられるかもしれません。でも健康診断のメリットの方がはるかに大です。

7月25日（生後71日目）、母ダヌキから分離した6頭の子ダヌキが動物病院に運ばれて来ました。生まれて初めて母親から離され、しかも人間に捕えられた恐怖も手つだってか、6頭が折り重って檻の隅にかたまっています。皮の手袋をつけて一頭ずつ捕え、まず性別チェック。ついでダンボール箱の中に入れて体重測定。体表面の外傷や歯、眼の検査をした後、ワクチン接種。最後に個体識別のために左の耳介の内側に各個体番号の入墨、右の耳にはその数字を示す刻みを入れました。入墨というと何となく穏やかではありませんが、顔つきや体つきに個々の特徴を見いだしにくい動物には、このような識別方法はなかなか有効です。

性比はオス1頭、メス5頭と圧倒的にメスが多く、体重はオスが最も軽くて1760g、メスは1950～2250gと成長にも差が認められました。また姉弟げんかが激しいのか、皆それぞれ体の各所に咬まれた傷があり、なかには化膿しかかっているものも認められました。消毒と抗生物質の軟膏を塗りこみましたが、大事には至らないでしょう。

それにしても、6頭の健康診断をして気がついたことは、皆それぞれ個性豊かなことでした。気の強いやつ、弱いやつ、咬みついてくるやつ、気絶しそうなやつ、鳴き声をはりあげるやつ……母ダヌキの気苦労は大変なことでしょう。やせ細って毛並の粗雑になった母ダヌキの姿を見ていると、子育ての苦労のほどがしのばれます。子ダヌキが一匹前になるのももうまもなく、それまでガンバッてくださいね！子ダヌキのお母さん!!

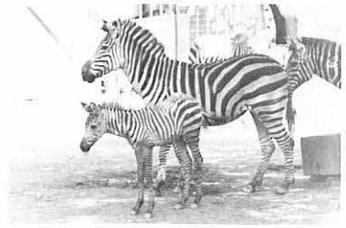
（飼育課：宮下　　実）

動物園ニュース

§　シマウマ出産!!

9月17日、グラントシマウマが生まれました。

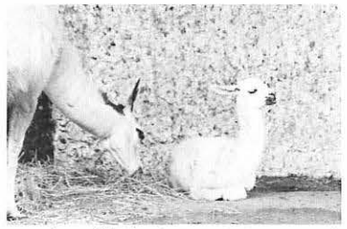
母親は、1973年に当園で生まれた“レディー”で、今回が2度目の出産でした。前回はうまく育ちませんでしたが、今回は順調です。今年は、5月にももう1頭生まれており、今年に入って2頭目のグラントシマウマの誕生となりました。



9月17日の朝、生まれていた子供は、逃走を防ぐために運動場のまわりにめぐらした深さ約1mの堀に落ちているのが発見されました。担当者が何回か上げてやったのですが、そのたびに堀に落ちるため、しかたなく、母子共に寝室に収容しました。1週間後、再び運動場に出しましたが、この時も堀に落ちてしまいました。しかし、この時は、自力で運動場へ登ることができ一安心しました。その後は順調に成育しています。6頭になったシマウマで放飼場はにぎやかになりました。

§　ラマ出産

9月5日、8日と相次いで、ラマの赤ちゃんが生まれました。共にメスで、子供たちは元気に育っています。



5日に出産した母親“マリー”は1977年に当園で生まれたもので、今回で4産目です。一方、8日に出産した“ホワイティー”は1973年に来園したもので、今回で8産目と、共にベテランママですので育児もうまく、2頭の子供たちは順調に成育しています。これで、ラマ一家は6頭の大家族となりました。

§　キョン誕生

最近、キョンの繁殖は順調で、8月に入って15日、26日と相次いで生まれています。キョンの出産は今年はこれで3頭目となり、キョンの一家も9頭の大家族となりました。

§　ホッキョクギツネの寄付

8月30日、一般の市民の方が飼育されていたホッキョクギツネ（オス）の寄付がありました。

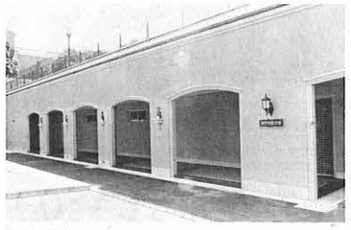
ホッキョクギツネは北極圏のツンドラ地帯の森林に生息しているイヌ科の動物で、丸い頭部、短かい鼻づら、ふさふさとした太い尾などが特徴的で、夏は青灰色の体毛をしていますが、冬には全身白色になる動物です。

検疫終了後、9月3日から小獣舎に展示しています。かわいい動物ですので、ご覧下さい。

§　夜行性動物舎、工事完了!!

2月から工事に入っていた夜行性動物舎の工事が、8月末に完了し、9月13日引き渡しを受けました。今回、建設された夜行性動物舎は人工照明で昼夜逆転し、夜行性の動物の生態を見ていただくことができるようになっています。

照明装置や機械類の調整と搬入後の動物を環境へ慣らせるために時間を必要としますので、公開の時期は未定ですが、来春早々にはみなさんにご覧いただけるでしょう。



◉　お知らせ・秋の動物園祭

10月14日から11月4日までの日曜日、祝日の5日間、秋の動物園祭が開催されます。ステージでのお遊戯、手品と人形劇、当園獣医師による動物の無料相談、大阪動物園ボランティアーズによる紙しばいとスポットガイドなどを行ないますのでご来園下さい。

＊・＊・＊・

すてき満喫

近鉄クレジットカード

●全国の近鉄百貨店グループ・都ホテチェーンなどでワイドにお使いいただけます。
●カードをご提示いただくだけで30万円までのお買物をお楽しみいただけます。
●繰り延べ払い(リボルビング方式)・一回払い・ボーナス一括払いの3つのお支払い方法がございます。
●入会資格は20歳以上で2年以上お勤め、または自営の方です。

近鉄百貨店　お申込み・お問合せは各店クレジットセンター
アベノ店・上本町店・東大阪店・奈良店・西京都店・東京店

近鉄百貨店グループ
四日市近鉄・京都近鉄・岐阜近鉄・枚方近鉄・和歌山近鉄・近鉄松下(徳山)・別府近鉄・三交百貨店(松阪・伊勢)・近鉄東海ストア

ひかりのくに

監修・阪口浩平
指導・宮武頼夫

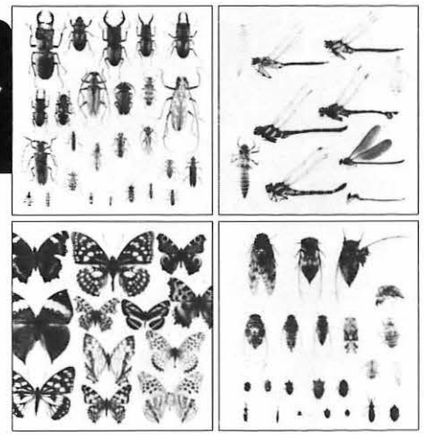
●オールカラー

むし
くらしとかいかた

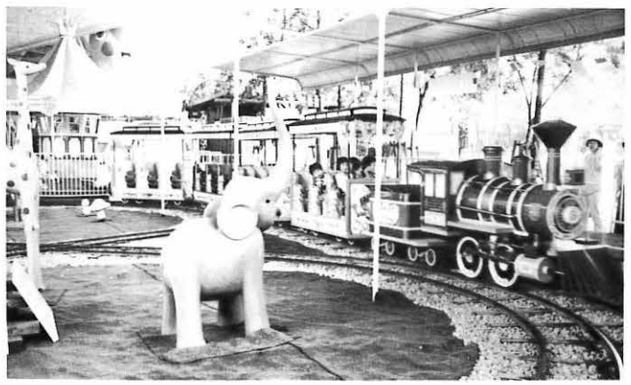
今まで、気にもとめなかった自然の中で昆虫たちが生きている。みんなも、虫になって自然の中を歩いてみよう。きっとすばらしいことに出会えるはずだ。

B5・変形 84ページ　580円

ひかりのくに株式会社
〒543 大阪市天王寺区上本町3-2



たのしい〝のりもの〟が待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

久竹娯楽株式会社
TEL (06)541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種〝のりもの〟があります。

天王寺動物園の機関紙

月刊 〝なきごえ〟

ご購読をお奨めします。
年間購読料 1,100円 (含、郵送料)

お申し込みは、 **大阪市天王寺動物園協会**へ
TEL 06-771-0201

世界初の最高感度
(カラープリント用フィルム)
1600 新登場!

カメラの大林
桜橋本店 ☎341—8091
三番街店 ☎372—5031

フジカラーHR1600
ISO1600／33° 135-24枚撮

天王寺動物園
ZOO GUIDEの

ご購読をおすゝめします
(1冊 ¥450)
園内各売店にあります

あらゆる動物に愛の手を!

社団法人 大阪動物愛護会

全国の愛犬家の共感を呼ぶ
無比の愛犬歌集（絶賛再版）

歌集 **犬の歌**

（天金美装・箱入 B6判・270頁 2500円・〒不要）

動物文学会主宰
平岩米吉著
（直接申込乞う）

著者が，約40年の間に，共に暮した70余頭の犬の生と死を歌った419首を収録。同時に，その誕生より老齢に至る写真47図を収め，犬の一生の生態写真集でもある。

日本図書館協会選定
全国学校図書館選定

狼

その生態と歴史
犬科生態研究所長
平岩米吉著

A5判・320頁・口絵挿絵等140図
定価2800円・〒300円

待望の日本狼の正史ついに完成！
〔改訂四版〕

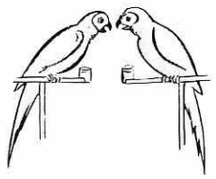
☆犬科動物の研究家として，当代随一の著者が，数十年にわたり収集した正確な資料を，生態学の目をもって描いた空前の書。
☆日本狼は，大口の真神とあがめられた古代より，のちには病狼と恐れられ，やがて絶滅に至るまでの経緯を詳述。

主な目次

序狼への幻想と現実
1 犬科の分類と解説
2 犬と狼の関係
3 日本狼の歴史
4 狼狩の記録
5 狼の伝説
6 日本狼の特徴
7 日本狼の絶滅
終狼を飼った人々

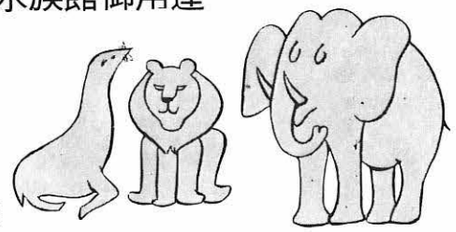
動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話(03)717-1659・振替東京5-9800

発売 ㈱池田書店 東京都新宿区弁天町43番地 振替・東京4-165425



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

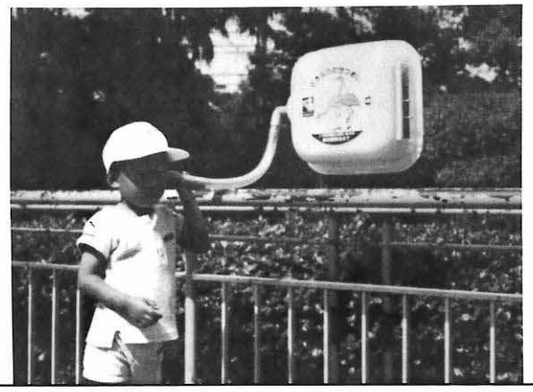


・医学実験用動物
・愛玩犬、猫直輸入
・宣伝用、テレビ用、貸動物
・教材用鳥獣剝製販売
・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 **吉川商会**

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517
飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494

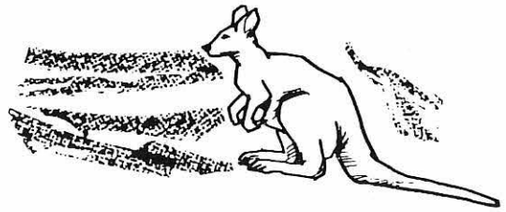
たのしい〝動物のお話〟は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヵ所にあります

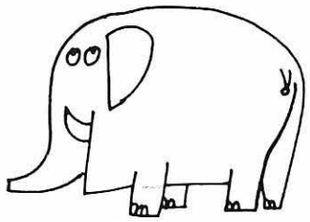
関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

……ぼっちゃん
……おじょうちゃん
どうぶつえんへ……
いらっしゃいませ……
ごきゅうけいは……
おしょくじは……



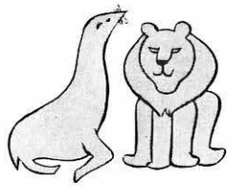
動物園内北園
中央売店
☎ (06) 771－0973

天王寺動物園内



南園売店
代表者 松谷良子
大阪市天王寺区茶臼山町6－74
電話 (06) 771－7110番

園内でのお写真は…
動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機しておりますのでご説明に伺いました際は、よろしくお願い致します。

カラー写真 キャビネ1枚 500円
撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06－856－7444

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。

果肉とソフトヨーグルトの名コンビ

自然のおいしさ

雪印ヨグール

●ブルーベリー・キウイフルーツ・ストロベリー・オレンジ・カクテル

なきごえ　昭和59年10月10日発行（毎月１回10日発行）　第20巻 第10号（通巻230号）

編　集／大阪市天王寺動物園
発行人／大阪市天王寺動物園協会　中川道朗
印刷所／株式会社　松村善進堂　定価100円（送料共）

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話　大阪（06）７７１－０２０１
振替口座　大　阪　３７８２３
１年継続（12部）1,100円（送料共）

編集委員
土井　良彦・伊東　重朗・小出　雅三・樽本　勲・中川　哲男・前田　豊彦
宮下　実・長瀬健二郎・榊原　安昭・森本　委利・大野　尊信・葭谷　文彦
農本　武志・野口　秀高・仲谷　登・柴田　総・兼坂　雅浩・堀　弘
大川　光雄